

# 家庭教育支援研修会 開催報告

## 趣 旨

核家族化、地域のつながりの希薄化、そして昨年から続くコロナ禍等、家庭を取り巻く環境が大きく変わり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら学びや相談の場にアクセスすることが困難な家庭等、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報交換や情報共有をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修を実施した。

日 時 令和3年9月17日(金)13:30~16:30(受付13:10~)

参加人数 83名

会 場 オンラインによる参加

## 対 象

- (1)国庫補助事業「地域における家庭教育支援基盤構築事業」実施市町担当者
- (2)家庭教育支援員、家庭教育支援チーム員等
- (3)市町教育委員会家庭教育担当者、市町教育委員会教育相談担当者、市町児童福祉主管課、子育て支援担当者
- (4)子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクール・ソーシャルワーカー、
- (5)民生委員・児童委員、主任児童委員等
- (6)地域連携担当教職員新任研修受講者(選択研修として受講される方)

日 程 13:30~13:40 ○開会行事(挨拶、日程説明)

13:40~14:50 ○講 演  
演 題:「今、求められている家庭教育支援について」  
講 師:新崎 国広氏(大阪教育大学 教育学部教育協働学科教授)

14:50~15:00 ○休 憩

15:00~15:30 ○事例発表  
発表内容:「山口県岩国市平田の子どもたち元気応援チームの取組」  
発表者 :川本 美由紀 氏(「とどける」元気応援サポーター)

15:30~16:20 ○質問コーナー

16:20~16:25 ○「訪問型家庭教育支援」等の説明

16:25~16:30 ○閉会



オンラインによる参加にもかかわらず、多くの方に参加いただきました。



参加者83名中、54名の方からアンケートを回収しました。

Q:本日の研修会の内容はどうでしたか？

①大変よかった…32名 ②よかった…22名 ③あまりよくなかった…0名 ④よくなかった…0名

## 参加者の声(受講者アンケートより)

○現在、中学校3年生の学習支援に支援者として参加していますが、もっと前の段階での支援の必要性を感じます。仕事柄、小学生の支援にも関わることが多いのですが、そうなると、さらに前の段階での支援の必要性を感じます。負のスパイラルや貧困のスパイラルをどこかで断ち切る働きかけが必要だと、日々頭を抱えています。

○充実した活動をしているところは、要となる人が適切な活動をしておられることを、改めて感じました。

○参加者のみなさんが積極的に質問して下さったので、人材確保や課題についてもクリアになり、良かったです。また、岩国市の事例発表や新崎先生の御講話も参考になりました。家庭教育支援を進めていくうえで大切なことや理論を学ぶことができました。家庭教育支援の中心が教育委員会になっているように思いますが、「風土をつくる」という意味では、地域の方に中心になっていただけるように、家庭教育支援チームを進めていくことが必要だと感じました。

○子育てに不安を抱えている方には、北風と太陽の「太陽」のような存在が必要なのだと、改めて感じました。岩国市の家庭教育支援チームの取組のように、長いスパンで保護者に関わっていくことが大切だと学びました。サポーターさんの思いが伝わってきました。

○民生委員・児童委員になって2年目です。高齢者が多く、子どもの少ない地域なのですが、朝の僅かな登校時間などに付き添って登校するなど、仲良くしてもらっています。このような活動を続けることによって、子どもたちは様々な顔を見せてくれます。見守りになることもあるのかなと思いつながりながら活動をしています。このように活動初心者と感じている私にとって、とても参考になる内容でした。受講して良かったです。

○子育てサロンを開催していますが、コロナ禍で中止の状態です。保護者へのアンケートをすると、息ぬきの場所が欲しいという要望が多いことから、保護者が地域でも気軽に話せる環境が必要だと感じています。はじめは相談者からスタートして、その後は家庭教育支援のアドバイザーになってもらえるような循環型の人材育成ができると良いなど考えています。このように貴重な研修を受けることができ感謝しています。ありがとうございました。

○岩国市では32校中22校に家庭教育支援員が配置されていることを知り、学校の実情に応じ、無理なく広げていくことが肝心であると感じました。コミュニティスクールや地域学校協働活動を進めていくなか、「家庭教育支援」も心まえ、地域総がかりで子どもの育ちを支援していくことを確認することができ、学びが多い研修になりました。

○今後、家庭教育支援員のみなさんと協働できることを楽しみにしています。地域の子どもたち、保護者、先生など、みんなが元気に、幸せに暮らせるように、一緒に取り組ませていただきたいと思います。ありがとうございました。

○訪問型家庭教育支援という言葉から想像していたイメージとは違い、支援の手を広げ、必要な時には、身近なところから各所へつながっていく支援の方法だということを知りました。あくまで「家庭教育支援」の一つの手段であることが理解できました。想像していたより支援の対象となる家庭が多いと思いました。

○学校と家庭、地域の協働の必要性が市町の住民に広く知れ渡るとよいと思いました。学校裁量ではありますが、人材発掘や体制整備をしていきたいと感じました。未来を生きる子どもをどのように育てていくかというところを外部とも共有し、家庭教育支援に結びつけられたらと思います。

